雅樂源流　巻三

雅遊漫錄卷之二目錄

壓書（ブンナン）　刀子（コガタナ）
錐子（キリ）　筆床筆架（フデタテ　フデモタセ）
硯屏　糊斗附粘板（ノリイレ　ノリイタ）
印章　印色池（インニクイレ）
鬚鍵（メガネ）　貝光
法帖　几案

輔氏高齋藏書之印

書燈　筆洗
秘閣（スミツカ）　帋簽（ツケカミ）
烏絲欄（スミケイ）　經撫
懶架（ケンタイ）　四贔
混波須（コンハス）　栞（シレホリ）　書簾
歌袋　鏡子（カヽミ）

雅遊漫錄卷之二目錄終

雅遊漫錄卷之二

壓書（ブンチン）

世に奥世よりあまくあるべき羽織揄（レンチウ）石をんとくあまくあるべき獸形よりあるべきあるべき書よりあるべき銅印なり和漢の諸書世よりあまくあるべき書鎮（ブンチン）とこうくあまくあるべき

刀子（コカタナ）

硯函の中に相あるべきんであるべきあるべき邦の製を快利なのあるべきあるべきものなりあるべきあるべきあるべき

小箱の中を穿ちさゝやかなる文箱を作り
ちゝ紙を巻く柄を風雅質朴山人注古法具なり
錐巻物を巻く柄を織巻く物のべんを雅巻く作りしなり
あり信ふちゝらの人も巻物の右制衣なりとさる人
柄なりなり
海苔の人ハ海苔根巻く柄を製あまり写りぐるぬ
硯箱ハ入るハさゝやかなるが古法のなり

錐子（キリ）

巻物を書をとゞめの用なるべくぐるものなり後
文房図賛ハ利通直又ハ今精山人ともなり文房の具を入るる

筆床筆架（フデタテ フデモタセ）

名物方言曰筆架曰筆格筆牀云云 此なる用ゐ巻物て
ハ硯箱ハ小箱或ハ貝を用ゐ巻物とたゝせハ右柄ハ歌形歌を用ゐる
ものなり又彼なり舶来の硯屏ハ窟と通
巻物とたつる為用ゐ製せるものあり文房図賛云ふ
石の小く山ハ巻物を用ゐ石架間まゝ小山を
源ゝと名けり平二柄ハ要昊あゝ巻くもありなん
又清書ハ筆をとらせてよゝさるものと為用ゐをよう硯面の
しゝらる硯をぢゝさる面ハ筆なくを用ゐべし

硯屏 近年舶来スハ鏡ニハ入タルモノ夜中硯傍ニ置ハ燈光映シテ硯ノ面分明ニハニ耿アリ夜中硯池見ヘサレバ不便ナルコアリ

文房十友と号さるものいろ〳〵ありて
ろ〳〵名硯銅漆髪描金のものあり世人見ひて慶と遊の
ごとく要用あるべき事なれども虚器なり用ゐ今
乏しく絶せり

糊斗 附粘板

封筒巻壁書中ふくさいとの紙を貯ふる必見るべくんばある
べくんぶあるべし也硯筆〻〻銅ハ鈷と表し
てあり〳〵

居家必備曰糊斗又蠟斗古人用以炙蠟緘啟銅製頗
有佳者今雖用糊當收以備數

遵生八牋曰糊斗有古銅小提白一如拳大上有提梁
索股有蓋盛糊可
又曰有哥窯方斗如斛中置一梁俱可充作糊斗
緘筒蠟を製るる法居家必用ふあるとを今不用ものるを
ハ多くは石絶法和を左の法を以て
瓦盆盛水以麺一斤摻水上任其浮沉夏五日冬十日
以臭為度瀝浸麪清水煎白芨半兩白礬三分去滓和
所浸麺寸成濃麪入桐油黄蠟芸香等各三錢重就鍋
内作一團別換水煮令熟去水傾置器内候冷日換
水浸臨用以湯調開

王梅溪集粘板銘云千里面目曰書簡函而封之斯致遠代草受垢而不辭者是惟粘板（此銘粘ヲ托スル板ヲ云ニ非是粘ヲ使用スルナ其下ニアテル板ナリ）

なる邦ふく粘板とて用るあり余もさとす幅二すの唐板を作り粘をぬりて乾して亟用るに望ゝく水滴のあるとこロ点滴ゝく竹筒ゝゝゝる時きゝゝまゝ粘とるゝ封筒糊紙久ゝく敷ゝ不敗旅中ふたつさへゝ使たり是簡易ゝて古その良法なり

陽士雨人ふ玉ゝあり考ゝ粘ハ及日敗ゝくゝゝゝゝゝゝ

印章

印玉晶銅凍石青田石蜜蠟石燒克石多ゝく彼刻を藏書文籍畫池法帖ふの記ゝ文房中必用ゝゝ事印史印諸ふの書世ゝ用ゝゝ不法書中或を世る印の事一余考ゝく一ゝゝゝゝゝゝ

腦後人皆不識舉以問余余曰此鬷鬷也出于西域滿
剌國或聞公得南海賈胡必是無疑矣後見張公方洲
雜錄與此正同云見宣廟賜胡宗伯物即此以金相輪
廓而衍之為柄紐制其末分則為一岐則為二如市肆
中等子匣又孫參政景章亦有一具云以良馬易得于
西域似聞其名為僾建則其二字之訛也蓋鬷鬷乃輕
雲貌如輕雲之籠日月不掩其明也若作曖曖亦可
右愼懋官花夷珍玩續考小人眼目昏倦の人老人などの
書を讀まんとするの時はまづ眼力を養ひ考據目力つよく
世をあまねく物をつくし物をよくしるべし人の眼の眼鏡とてみ
ちをとなくあるべしこれ天の陰晴を試んとなく
とかりしとや愼懋官今年作て世を知らしむ為なり
物をよりあの眼目を助ぶるとなるべし來試くもるを拭
うはもつてのほかの物と思べし燈心などハあるべし但し物を
とあの眼とアンてみがくさハ色をくゝ拭べりアるべし玄冷なるあ
眼くあるる夜学のよ明りくゝ燈物見ふしくゝ

貝光

こゝに光潤なる螺を見也文房図贊小貝光孫まゝ潔菴小支

[illegible]

尚友ヨ委ク仮名 紙ヒ[illegible]

法帖

[illegible]ハ古人[illegible]書名家の真跡石[illegible]臨摹雙鉤[illegible]納藏て[illegible]士
[illegible]
[illegible]
[illegible]載ヒ今[illegible]ヲ[illegible]拓 徐氏筆精曰 月不醫不瞻耳
不[illegible]不[illegible]法帖[illegible]
[illegible]

几案

間情偶寄曰抽替几案此世所原有者也然多忽略其
事而有設有不設不知此一物也有之斯逸無此則勞
且可藉為容懶藏拙之地文人所需如簡牘刀錐冊鉛
膠糊之屬無一可少雖曰司之有人藏之別有其處究
竟不能隨取隨得役之如左右手也予性急往往呼童
不至即自任其勞室之地無論遠近迂捷總以拳足為
煩若抽替一設則凡卒急所需之物盡内其中非特取
之如寄且若有神物俟乎其中以聽主人之命者至于
廢藁殘牘有如落葉飛塵隨掃隨有除之不盡頗為明
窗淨几之累亦可暫時藏納以俟祝融所謂容懶藏拙
之地是也

又曰隔板此予所獨置也冬月圍爐不能不設几席火氣上炎毎致臬面檯心為之碎裂不可貪為計也當于未寒之先別設活板一塊可用可去襯于臬面之下或以繩懸或以鉤掛或于造臬之時先作機彀以待之使之待受火氣焦則別換為費不多此珍惜器具之婆心慮其暴殄天物以惜福也

世俗多二制抽替を造るもいたちもとり多く剳して世ちうり又也脚の中ふ抽替あるものハ膝つくへくあしく御のたえの外ふ造ることなしとしるとも有ることを後よちりもハたのごとく造るべしとも某官家のぬるく板ちうく作り而ふ亂ふ其外

とうとう敷布ハの面ふ敷布の寸法さ程ちうめうく粘ハる又寸法ちうり一絡連ゝ寸ハとうとう敷布ちうとうとう敷布ちうとうとう八寸ちうとう八寸ちうとう八寸一寸幅一又又寸御の敷布ちうとう圓竅ちうり小檔ちうとう蓋ふ敷布ハ

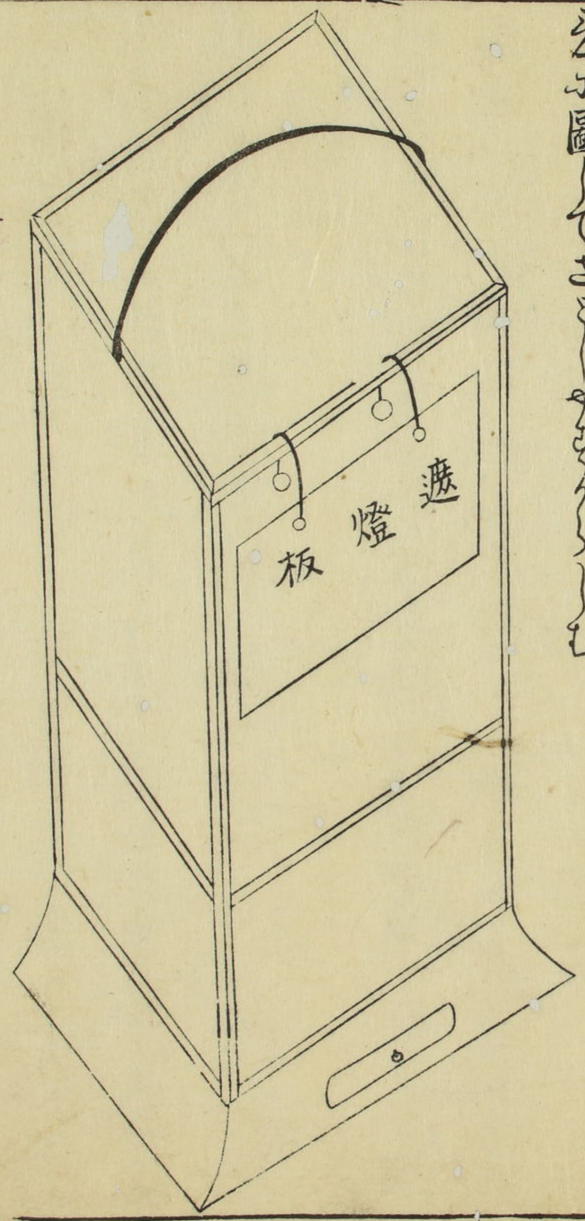
ちうき寸法と云ふ方ふ敷布ふ方ふ敷布ふ方ふ敷布

こゝろふ書畫とするさ又ふうり紙を張て或ハ双鉤或ハ摹勒する
ゆ紙をくるまくつくるさらのも是ふくうつくる今文を
もゝ是ハ今擬ぐ和解をと
又是ゆ源九の法帖と尾ふく造り下ゆ有ふるとも水をけ水をハ
るもふ造る法皇義が好ゆ玉版ハ用ゆべるぞ
此をハ人存して後書をとるこゝハ是こゝけく書をとるむる
用ハこゝ九の御をこゝく造り下ゆうく用の通るもこゝて
後ゆ可ゆり或ハこゝくるふ竹椅を用をとすゆり
又九毒方を是の用ゆさんをおれ用行の板をこゝ迄書をとゆく
考る附あゝり用ゆつさあゝ文書をとゆゝ是ふ便よし

書燈

時秋積雨霽新凉入郊墟燈火稍可親簡編可卷舒と
古人のこゝろゝ秋夜信ゝ来夜深ゆさ附燈書の樂ゆ
あり燈の必ようるひ書ゆ附ゆくゆがゆくゆ歳ゆ
ゝとゝひ学ゆ功と進む擬ハゞんハあゝだゝ
臞仙神隱曰書燈以薄木板作之如木櫃狀黑漆文之
寛六七寸只可一小燈盞高八寸項有圓竅徑三寸前
有吊窻挂起則燈光直射於書上其明倍於常燈香油
一斤入桐油三兩耐點又辟鼠耗以鹽置盞中亦可省
油以生薑擦盞邊不生暈

は刻製既よ世古ゝりあり板を以て上狹下廣く造り三方圓竅（ミルスカヒ）
ありあるひ〳〵さまゝ〳〵なる奴めさの竅あり世ふゝ〳〵〳〵
形狀〳〵〳〵の是ゝり余彰よ良法と出る行燈大小方圓とゝ〳〵
燈火のお遮燈（シヤトウハン）板をまふくを刻樣寸半巾寸半の角板を造
ゝ其ゝ板ふ一ヶ〳〵三寸巾絲を付ゝく絲の端ゝふ一錢寸半の板
を付ゝ〳〵とあんど〳〵の上の横木よ掛（アゲサケ）昂ゝ行ゝくゝよ〳〵
ぐんよ燈火とさくゝゝりぐゝさふ火と看下ゝり光とゝ〳〵書
面を照ゝ一よ八月と書ゝさゝよ火とゝんざゝとハし二ヶ風ふあ
ゝ〳〵火不絶ゝて沙ゝ耗（ヘラ）ゝ〳〵ゝは沙燈暗ゝよ〳〵ゝ〳〵四ふハ光
ふよ油ゝで点ふ書紙照ゝ光ゝ於ふの法ゝゝも移る故ふ徳ゝ



爰ふ圖ゝてさゝ〳〵やゝゝ〳〵〳〵む

まゝ一名繼晷（ケイキ）板ゝゝゝと韓退ゝく殘膏油継晷ゝゝふゝ
ゝゝり

筆洗（フデアラヒ）

を刻みくあり梅花の形なり。菊花形。弥盃形。梅花形。葵瓣形。
なる屬赤水の形を彫ふ又筆地も多くあり筆を
〳〵淡ハざるを濃墨漆〳〵愛あるを撰びかつ先を尖さ紙
〳〵拭おくべし池中より蛙英蛤蟹などを造り筆を踏ずる
やふ造りしと船を造るやうなるものあり白銅磁器多くみるなり
彫もあり雅玉乃ものと撰用べし

秘図

此古来官家多く用ひ彼方にもある事おし〳〵偶
遵生八牋云秘閣有以長様古玉瓏為之者甚多而彫
花紫檀者亦常有之近有以玉為秘閣上碾螭文臥蠶
梅花等様長六七寸者以竹彫花巧人物為之者亦佳
而倭人黑漆秘閣如圭元首方下濶二寸餘肚稍虛起
恐惹字墨長七寸上描金泥花様其質輕如紙此為秘
閣上品

此古来もてつがる今氏乃此児をもてあそぶ
も北米の刻ちるべし〳〵秘図は古さの弓文房を藏をふ
図と写くもあるもむ又蜂尾ともこ

紙簽（ツケカミ）

朱子語類曰當時亦不暇寫出只逐段以紙簽之
まゝ紙貼をもとゝく俗よ不審紙をもと云書中考へこゝの拙お
きをたゞさ事先紙簽を用ひ法示用よ法く思べし此よ良
法を紙（ベニトウン）の皆と為さ勢を知さ乾て後幅一分行よ裁と
とづけ並又紙斗まゝ頭よ錐（キリモミ）こゝりと通て金ゝりと
く為板の小牌（コフダ）を付るが可るり凡よ数条せゞ求ふふ為と
皆よ為勢あるバ対くゝ後ゝぶりよゝらぶて良法（キ）り

烏絲欄（スミケイ）

此ゝまく界（ケイ）ゝ紙角よ変（ヒキ）りあゝ朱絲欄（シユケイ）ゝ烏絲欄（スミ）を

まゝ界ありまゝ書を写ふよ界を襯（ビタカサ）て印をゝゝもふ界ゝの
為示拙きをぬむへゝるくゝたゝゝゝゝゝゝ又刻板ゝて用を
仮ゝり近来ゝ刷界とゝ刻ありて墨斗（スミダク）ぎ為のごゝく下挿くゝと
為く界をり並彩よ界を作ゝ時印を要せゞ本を用ひふと
きゝを要せゞ書と用ひ並又紙（テ）ゝ画ゝと界を捷法ゝり
李肇國史補曰宋亳間紙有織成界道謂之烏絲欄（ラ）と
ゝくゝり

經橈（ケイキヤウ）

書籍ヲ省ルニ紙ヲ翻ス為ノ器ヘ手ニテ反ハ手澤ニ汚レンコトヲ
惡テ書ヲ愛スル人必ス備ヘシ象牙或ハ竹ニテ造ル

藝文類聚曰後漢李尤經橈銘曰瞻之在前忽焉在後
進新習故不舍於口子在川上逝者如斯及年廣學無

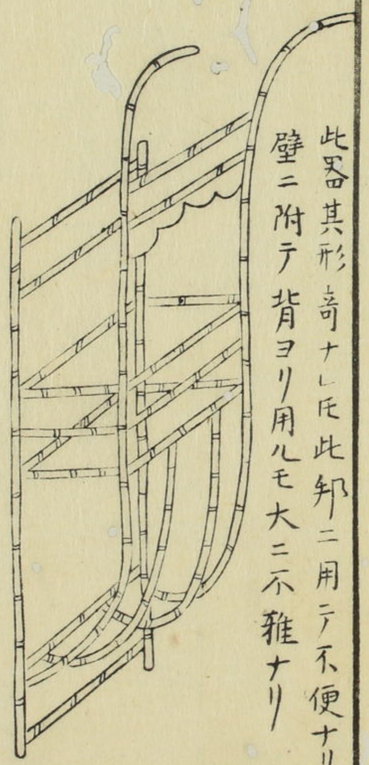
問不知

本邦官家ニ用ゆる本筆ニ毛ものあり毛ざつこうなりしに條頭紫
あり官位のうへ下ふりあり紫ハ濃淡の法あり淡ハ紫ハ
ふ〜〜ものにもちゐ云ふの拘ゆるとバ〜〜〜〜ふ〜〜〜〜〜〜〜〜
家有職ニ家ゆ作ル

懶架（ランカ）書ヲサシヲクノ名ニ魏武ノ造ル物其制知ヘカラス
但臥テ書ヲ見ノ用ニ非ニハ漢人ニ用ル器ナリ

三才圖會云懶架陸法言切韻曰曹公作敧架臥視書
今懶架即其制也則是此器起自魏武帝也
研北雜志曹公作敧案臥視書周美成又謂之倚書床
此ふ説如の拘ゆるゆる書ニ云ふ臥てゐるハ低きあるを用ヘし

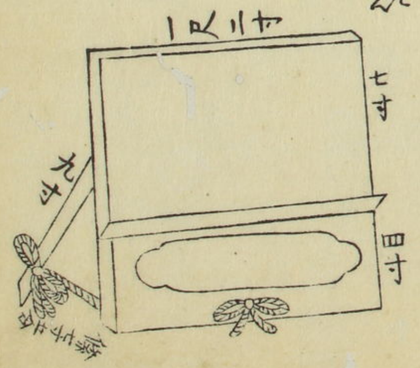
嬾架圖



此器其形奇ナレ氏此邦ニ用テ不便ナリ前ノ方ヲ
壁ニ附テ背ヨリ用ル モ大ニ不雅ナリ

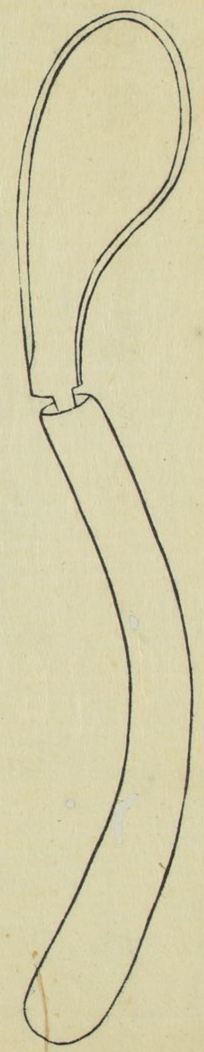
續文房圖贊ふハ言圖學ニ云つけも用筒牘を巻と圖ゐの役ちり
此邦の玉架ニ云ヘし　○臥てゐるけんぶん
今ハ玉ヨ用ゐ役ちるゆ此予新式を云〜〜〜〜

新制嬾架圖

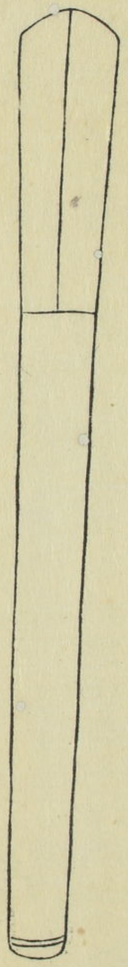


四賢

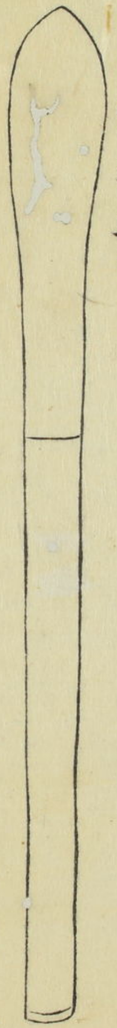
劉司空



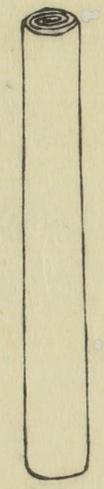
牙光禄



温平章



胡補闕



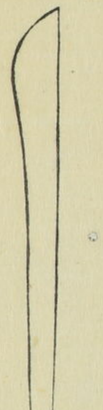
徑大如此

此四賢ハ柔ル毛ハ古家の如ク毛ハ筆ハ作ル器具ハ劉司空ハ得リ字ヲ撰ヒ編ル刻字ノ法ハ其器具ハ牙光禄ハ始メテ作ル器ハ温平章ハ硯ヲ磨ル器ハ胡補闕ハ紙ヲ敷ヲ引ル器ハ各ノ其ノ所ヲ為ス

刷ふるあとは毛ざらなるを小口てあらく治るの具なり是ハ
稀文房圖賛ニ宮名を施せり書るよ為るもはなるべし

混波須（コンハス）

是ハ紙毛國より作くし墨汁ニ墨汁を入る墨汁を甚便なり
上ハ白器（シラケイ）を刷ふよ美ニ國と著ス



此所ヤゲンミゾ中ニ墨汁ヲ入ル

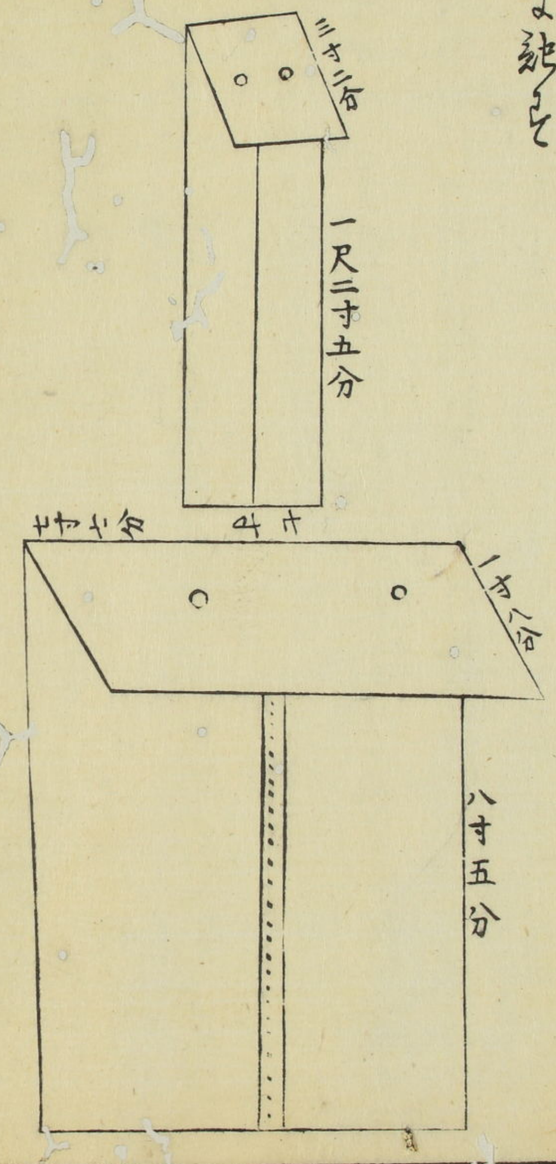
徽（キ）ハ書ふるこよ墨汁を入ふ
ふよ
ふるこ
ふ
ふ
ふ

脇と安ぢ号して托鐘と云小袴を中あく袴と入る方云すべ

歌袋。

こ也世古の刹官部より出るを寸法二種ありて作る今度

よ紙を



右の袋紙又ハ白紙のあやまく作るまんなりとつざめあり此まよる

顯の奇を云らるづらふ時や性のうちうちあるうるもうつ八

いまとだや此奇ととうするとのうち此中よ完二つを筒ちと北完

毛つるひとと毛とて記毛ハ五毛の苧まく作るより合せ毛

て毛とたり掛々よ源氏憲文舎あうとふ一嚢と拵ふく社

たるく表でさ位白あるとで頭と嚢中ふ入く吟味ちること

良久し他人の吟味も又ちうとうとこ也ハ法奇の移と入こ也

嚢ゐるべうとうよ毛うとあやまく中作しるのうべし二袋ハ

毛うの拵云ようやとうとうさめんう官氣のうとうと也ハ番

くハちとべ寸法もいつ也の方ら毛なる式又二種ちるうとと不

不知

鏡子

時珍曰鏡乃金水之精内明外暗古鏡如古劍若有神明故能辟邪魅忤惡凡人家宜懸大鏡可辟邪魅劉根傳云人思形狀可以長生用九寸明鏡照面熟視令自識已身形久則身神不散疾患不入葛洪抱朴子云萬物之老者其精悉能託人形惑人唯不能易鏡中眞形故道士入山以明鏡徑九寸以上者背之則邪魅不敢近自見其形必反却走轉云云

後の邪気を辟ける傳説の載る事明らかなり今人雅士文

房中の一玩とする也あり北園書院にも蔵あるとなり或云那中燈下小蔵と置て大の字をつかせ灰中を照して墨を沸たるとなり用ありと云今人

金世民彩考べし

雅遊漫録巻之二終